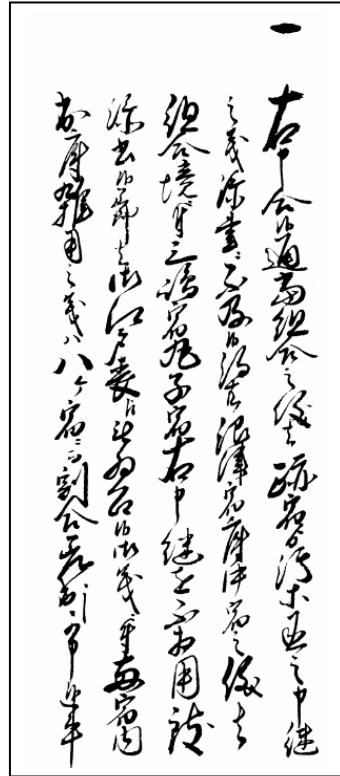


「より」という合字

今回から新しい部分に入ります。まず、全体を右に載せました。



(a)

(a)は最初の **右** が「古」にも見えますが「右」です。次の **合** は「中」にも見えますが「申」です。次の **通** は「合」です。最後の2文字は「^{そうろうとあり}候通」なので、「^{みぎもうしあわせ}右申合候通」。この5文字をひとかたまりで考えれば、「古」や「中」では意味が通らなくなります。

(b)は最初の **為** が、相変わらず難問でしょ



(b)

うか。第12回と22回に出てきました。「當(当)」です。次の **組** は「糸」に「且」か「旦」という感じですから、「組」。 **合** は「合」なので、まとめると、「当組合」です。次の **之** も簡単で、「之」。 **儀** は、第8回と21回にも出てきた「儀」です。 **者** は、もう慣れたでしょうか。第17回と26回に出てきた「者(は)」です。

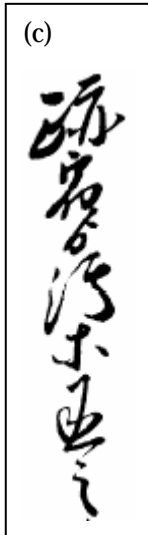
(c)は最初の **跡** が難関です。偏はよくわからないと思いますが、^{つくり} 旁は「亦」と読めるでしょう。旁が「亦」の字は

「跡」くらいしか思い当たらないと思います。次の **宿** は第1回で出てきた

「宿」です。次の **汚** が、今回のメインで、これは **汚** と書いてあり、これで「より」と読みます。記号のようなものです。この **汚** は、頻出する語句で、これまで出てこなかったのが不思議なほどです。ここで覚えてしま

ってください。次の **等** は前回出てきた「汚」です。次の **有** は「等」で、

これはもう慣れたと思います。 **有** は難しいですが、その下が「之」ですから「^{これあり}有之」だとわかります。まとめると「^{あとしゆくより}跡 ^{よこれなど}宿 汚 等有之」となります。



(c)